

■井上馨 政治家。維新前後の混乱收拾に寄与、極端な欧化政策で失脚するも、裏面で様々な活動を展開し続けた。

いのうえかおる

滑稽+人情本 1835= 周防国吉敷郡湯田村で、萩藩の田地1町、畑4~5反をもつ100石の地侍の次男に生まれる。

大塩平八郎乱1837= 2歳:

天保改革終・1844= 9歳:

阿部正弘首座1845=10歳: この頃、山口講習堂に入る。

尊徳報徳論・1851=16歳: この頃、兄光遠とともに、藩校明倫館に学び、

ペリー来航・1853=18歳:

開国開港・1854=19歳: この年、吉田松陰が野山獄に移送される。

安政大地震・1855=20歳: 藩士志道家の養子となり、萩と江戸を往復。江戸では剣豪斎藤弥九郎の塾に通う。

蕃書調所・1857=22歳: この年、松陰が松下村塾を開設。

五ヶ国条約・1858=23歳: この年、松陰が野山獄に再入獄。江川坦庵の塾で西洋砲術を学び、海防に目を向けるようになる。

安政の大獄・1859=24歳: この年、松陰が江戸伝馬町の獄で処刑。この頃、江戸で伊藤博文と出会う。

桜田門外変・1860=25歳: 藩主毛利敬親の小姓となり、聞多の名を与えられ、藩主の身辺警護、

生麦事件・1862=27歳: *世子定広(元徳)の小姓役となり江戸在勤を命じられ、高杉晋作と出会う。尊攘運動に参加、ジャーディン・マディソン商会で壬戌丸の購入交渉をし、同志と英国公使館焼討ち事件を起こす。

8月18日政変 1863=28歳: 井上家に復帰。久坂玄瑞らから佐久間象山の話の聞き、イギリス密航を決意。藩主から認められ、伊藤博文ら4名とともに出航、早くも上海で開国論に転じて伊藤らを驚かせ、ロンドンに到着。

禁門の変・1864=29歳: 四国連合艦隊の下関攻撃計画を知り、急きょ伊藤と帰国、幕府の長州征伐と連合艦隊攻撃のはざまにあった長州藩のために講和を周旋。この間、反対派に襲われて重傷、母の看護で一命をとりとめる。

薩摩藩士密航1865=30歳: 高杉晋作に呼応し、奇兵隊の鴻城軍総督となり、伊藤博文とともにグラバーと交渉し、銃を買い付け、

薩長同盟・1866=31歳: 芸者"お静"を連れて別府に逃げ、博徒"灘亀"の子分になる。三田尻港に寄港したキング提督と祝宴開催。

大政奉還・1867=32歳: 芸者"力松"を落籍し、"お照"を妾にする。三藩同盟成立(薩長同盟+芸州藩)を主導。

明治維新・1868=33歳: 新政府成立後、参与となり、長崎府判事として浦上キリシタンを処分後、長崎製鉄所の用掛けとなり、国産ライフルの製造に着手。

戊辰戦争終・1869=34歳: 兄光遠が死去。大阪造幣局初代造幣頭、造幣中の造幣寮が炎上。脱隊騒動の鎮圧を木戸孝允と行う。

初の日刊新聞1870=35歳: 武子と結婚。小郡の吉富簡一の家身を隠して情報収集した後、大蔵少輔を経て、

廃藩置県・1871=36歳: 毛利敬親が死去。大阪造幣寮が落成。*大蔵大輔となる一方、大久保利通との対立が表面化し、西郷隆盛からは"三井の番頭さん"と揶揄され、司法卿に就任した江藤新平が失脚工作を開始するなか、ウォートルスによる銀座の煉瓦街づくりをバックアップし、土地永代売買の禁を解く。

明治6年政変 1873=38歳: 尾去沢銅山事件への風当たりで、部下の渋沢栄一とともに辞職、先取会社を起こす。

初の民間工場1875=40歳: 江華島事件に、特命全権弁理大臣黒田清隆の補佐役として、特命副全権弁理大臣を命じられ、

三つの反乱・1876=41歳: 日朝修好条規(江華条約)を締結後、財政経済研究を命じられ、妻子らを連れて、アメリカ経由で渡欧。

西南戦争・1877=42歳: 前年に、先取会社を整理して立ち上げた三井物産が上海に代理店を開設。

大久保暗殺・1878=43歳: 帰国。明治天皇巡幸に供奉し、新潟新聞に遊廓で遊んだとの捏造記事。西本願寺から"超然"の法名。

琉球処分・1879=44歳: 勲一等旭日大綬章。外務卿となるが、実業面も熱心に差配、

明治14年政変1881=46歳: 条約改正に取組む一方、大隈重信を大蔵卿から外して、"馨・伊藤対大隈"の構図ができ、

新体詩抄・1882=47歳: 薩派と組んで大隈らを追放(明治14年の政変)。心労により、しばらく熱海で療養。

岩倉具視没・1883=48歳: 朝鮮で壬午の軍乱で、武力制圧論に対して、邦人保護のみを主張。板垣退助と後藤象二郎の洋行を実現。

秩父事件・1884=49歳: "八家申合條款"をまとめ、鹿鳴館開館を実現後、四国の道後温泉で療養。

内閣発足・1885=50歳: 華族に列せられ伯爵。甲申事変処理のため、特派全権大使に任命され、*成功させて帰国。内閣制の設置をめぐる議論で酒に酔った黒田清隆にピストルを突き付けられる。第1次伊藤博文内閣で外相になると、条約改正に向けて極端な欧化政策をとり、国民の反感を買い、

帝国大学始・1886=51歳: 上州遷都論を提言。

国民之友始・1887=52歳: 辞職。この年、井上馨邸の天覧劇に市川團十郎・尾上菊五郎・市川左団次・中村芝翫ら出演。

初の対等条約1888=53歳: 黒田清隆内閣の農商務大臣、

帝国憲法発布1889=54歳: 来島恒喜に命を狙われるが、頭山満が阻止。脳病を理由に、別荘で引きこもり後、温泉で療養。

帝国議会始・1890=55歳: ようやく復帰するも、毛利家の家憲制定。

足尾鉾毒始・1891=56歳: 長府毛利家・徳山毛利家の家憲を制定し、毛利敬親の銅像建設発議などに過し、

大本教・1892=57歳: 山口県に隠棲後、第二次伊藤内閣の内務大臣となり、負傷した伊藤の首相臨時代理も務める。

日清戦争始・1894=59歳: 磯部温泉に引きこもる。特命全権公使となって渡韓し、朝鮮の内政改革に取り組むが、

日清戦争終・1895=60歳: 改革が進まず、帰国。入院して腫瘍を切除。

八幡製鉄始・1897=62歳: 渡邊修二郎の「評伝井上馨」が刊行される。

子規句歌革新1898=63歳: 第三次伊藤内閣の大蔵大臣を歴任。議会の大半を占めるに至った憲政党に対抗すべく、画策するも失敗、

Bushidou・1899=64歳: 毛利敬親の銅像が完成。

ピアノ国産化・1900=65歳: 腫瘍で再び入院。

田中正造直訴1901=66歳: *組閣の命を受けたが拜辞、以後政界の第一線から退き、元老の一人として政界に臨む。

日比谷公園・1903=68歳: 日露協商路線をとり、日露戦争回避を主張するも、

日露戦争始・1904=69歳: 日露開戦に、三井集会所に財界要人を集め、国債一億円を募集。

日露戦争終・1905=70歳: 南満州鉄道の共同経営の覚書きを交すも、小村寿太郎が反対して反故に。

満鉄発足・1906=71歳: 満鉄総裁になる案が浮上の一方、「読売新聞」にスキャンダルを書かれる。

韓国反日暴動1907=72歳: 和綴じの「井上伯伝」が完成。侯爵となる。東洋拓殖会社の創設を訴え、創立委員会を開催。

アヲキ創刊・1908=73歳: 尿毒症で体調悪化するも快復。伊藤痴遊「明治元勳井上侯実伝」刊行。

韓国併合・1910=75歳: 興津別荘の長者山に"日本一の巨像"となる自身の銅像が完成。

大逆事件判決1911=76歳: 旧井上邸跡地に寄付し公園に。

明治天皇没・1912=77歳: 伊藤痴遊が「血気時代の井上侯」を刊行。

大正政変・1913=78歳: 脳溢血で倒れるも、

第一次大戦始1914=79歳: なお、大隈重信首相実現を主導し、第二の近代化に向けて、英仏露と協力するよう病床から指示して、

21ヶ条要求・1915=80歳: 没した。

堀雅昭「井上馨～開明的ナショナリズム～」, 「この人どんな人」, 「没年日本史人物事典」, 「日本の群像」, 平凡社百科事典, 山田風太郎「人間臨終図巻」, 「江戸・東京を造った人々」,